

令和元年度大阪府立西野田工科高等学校 定時制の課程 第1回学校運営協議会

□日 時：令和元年6月19日（水）18:00～20:00

□出席者：協議会委員6名、准校長、教頭、主査、生徒部長、教務部長、進路指導主事、記録担当者

□第一部：准校長あいさつ、学校運営協議会について、委員・事務局紹介

□第二部：協議

◆学校経営計画について（准校長より説明）

- ・大項目「個々に応じた教育活動を通して、社会において自立できる生徒を育成し、地域に信頼される学校をめざす。」をあらたに掲げた。
- ・今年度の目標として、
 - ①安全安心で魅力ある学校づくり、個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用
 - ②確かな学力の育成、わかる授業・充実した授業の実践
 - ③夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

◆本校の状況と課題（教務部・生徒部より説明）

【教務部】昨年度の取組、生徒数の推移、教務概要、出席率の推移など

【生徒部】生徒指導、特別活動、部活動、教育相談、進路状況など

◇委員からの意見

- ・不登校経験のある生徒、集団生活になじめない生徒が多く在籍しているなか、進級率、出席率が上がっていることは、学校の取組みの成果のあらわれである。
- ・親離れ、子離れができない親子関係から、自己解決ができない生徒が増えているのではないだろうか。
- ・スマートホンが普及し、授業において積極的にICTを活用していくなか、今後、生徒を取り巻くSNSの問題がさらに難しくなっていくと感じている。
- ・社会の情報量が多く、選択肢が増えているようで、物事の理解が浅く、本質まで理解していない生徒が増えていると感じている。
- ・今年度、初めての試みとして実施した「着こなし講座」は、ネクタイの締め方や就職活動のための化粧など、生徒たちが熱心に聞いていた姿が印象的で、良い取組みであった。

◆まとめ

- 生徒たちを社会につなげていくためには、基礎学力に加え、どんどん変わっていく社会を生きていく力、勉強とは異なる別の力を身につけることも大切である。
- 小、中学校で学校に行きづらくなり、その結果、基礎学力に課題のある生徒たちに対して、引き続き、個々に応じたサポートが必要である。
- 定時制の課程で難しい環境ではあるが、マナーや規範意識を高めることについて、地域との交流という視点で捉えていけば良いと思う。